

わたしの修習時代

紀尾井町：1948－70

湯島：1971－93

和光：1994－

55期 (2001/平成13年)

信濃の国は十州に♪

会員 馬淵 泰至 (55期)



長野修習中にアルペン競技の大会に出場して、3位入賞

私の実務修習地は長野でした。男女3名ずつの計6名で、静かな地方都市での1年間。地元出身者は1人で、5名が一人暮らし。修習が1年制になった第53期以降、前後の期との重なりがなくなり、54期の方々から家財道具や車を譲り受けてスタートしました。

修習は検察庁、弁護士事務所、裁判所を3か月ごとにローテーションで回る形式でしたが、6名という少人数だったこともあり、お互いすぐに打ち解け、地元の生活にも自然と馴染んでいきました。そばや山菜が美味しい地域で、裁判修習の時は、昼食に近くのそば屋へ通うのが日課になっていました。裁判所に「マイざる」と「マイそばちょこ」を常備し、持ち帰り専門のそば屋でそばや天ぷらを購入し、裁判官室で舌鼓を打っていました。

弁護士修習では、6名の指導担当が私たち6名の面倒を見てくれました。加えて、非常にたくさんの弁護士にかわいがっていただき、このときの関わりが今の私の弁護士像を築いているのではないかと思います。

そして、忘れられないのは冬の思い出です。スキーをするために長野を選んだと言っても過言ではありません。スキーシーズンに入ると、週末は、白馬、志賀高原、戸隠などいろいろなスキー場に通いました。また、いづなりリゾートスキー場のナイターシーズン券を購入し、受験勉強でなまったスキー技術のリハビリに励んでいました。新雪が積もればスノーボード、バーンが締まって

いればスキーと、その日のコンディションに合わせて贅沢に遊び分ける日々。ゲレンデから見下ろす善光寺平の夜景は、今でも心に残っています。

ただ、思い返せばこの修習期間、あまり勉強した記憶がありません。6名の中には裁判官志望が1人もおらず、全体的に和やかな雰囲気。実務経験というよりは、地域での暮らしや仲間との交流に重きを置いてしまったように思います。和光での後期集合修習に戻ってきたとき、他のクラスメイトたちが想像以上に真面目に勉強していたのを目の当たりにして、初めて焦りを感じたことをよく覚えています。その後は遅れを取り戻すべく、必死に机にかじりついたのも今となっては良い思い出です。

長野での修習は、法律実務の入口として貴重な体験を多く得られたと同時に、人とのつながりや地域との関わり、自然とともに生きることの豊かさを教えてくれました。贅沢でちょっと緩めの修習時代。それまで京都から出たことのなかった私にとってかけがえのない1年間でした。



長野地方裁判所前で